

■第72回 河川レンジャー制度運営委員会（2024.6.4）議事録

◆出席：中谷委員、北井委員、平山委員、沼田委員、若公委員

（太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局）

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
1. 開会	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・少しお時間前なんですけれども、参加予定者の方、皆さんそろわれましたので、始めさせてもらってよろしいでしょうか。
	△長谷川	<ul style="list-style-type: none"> ・本日はご多忙の中、河川レンジャー制度運営会にご出席を賜りお礼申し上げます。定刻となりましたので、第72回河川レンジャー制度運営委員会を開会いたします。私は琵琶湖河川事務所専門調査官の長谷川でございます。よろしくお願いいたします。 ・本日の委員会でございますが、全員ご参加いただいております。委員会規約第8条第2項では、過半数以上の出席により委員会が成立いたしますので、委員会の成立を報告いたします。 ・本日は、今年度の河川レンジャーの活動計画についてご審議、また活動しやすい環境整備の議論をいただく予定となっております。資料については、河川レンジャー活動支援室から、後、追ってご説明させていただきます。では、よろしくお願いいたします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・支援室の中西でございます。よろしくお願いいたします。お手元にお配りしております資料のほうでございますが、委員会の資料につきましては、まず議事次第、それから委員名簿というのがございます。これは資料番号がついてございません。それから、資料番号がついているものとして、資料1から資料6までの6種類がございます。また、参考資料としては5種類つけてございます。資料の過不足がございましたら、お申し出いただきますよう、よろしくお願いいたします。 ・続きまして、委員のご紹介をさせていただきます。お手元の議事次第の次にあります72回河川レンジャー制度運営委員会名簿をご確認ください。私のほうからお名前を紹介させていただきますので、一言お願いできればと思います。まず、河川レンジャー制度運営委員の中谷恵剛様。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・中谷です。皆さんこんにちは。よろしくお願いいたします。 ・一言ということでしたので。大分、県の河川関係の仕事をしていた折から関わらせていただいて、もう随分長い歴史で、その間、レンジャーさんの活動も見させてもらってききましたが、経験していただくごとにうまく広がっているとか、そういうのを見ていて大いに期待しておりますし、またここでの議論が今後のそういう活動の広がりにも少しでも役に立っていけばという思いでございます。よろしくお願いいたします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・続きまして、平山奈央子委員。
平山	<ul style="list-style-type: none"> ・平山です。よろしくお願いいたします。 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・というのが一言かと思っただけなんですけれども。住民参加に関心がありまして、私自身が河川レンジャーをしていたということもあるので何かお役に立てればと思っただけです。よろしくお願いします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・続きまして、北井香委員でございます。
	北井	<ul style="list-style-type: none"> ・北井です。よろしくお願いします。 ・淡海の川づくりフォーラム実行委員長と所属に書いていただいておりますが、河川の関係で県の公募の委員をやった関係から、川づくりフォーラムという活動のネットワークとか、エネルギーもらおうという発表会とかの運営に関わらせてもらったりしています。 ・仕事のほうはどっちかというと河川レンジャーさんによく似ていて、中間的な何かコーディネートするような、職種についています。皆さんの活動でも参考になることがいろいろあって、充実してきたなと思いつつ参加しています。よろしくお願いします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・続きまして、沼田淳委員でございます。
	沼田	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さん、こんにちは。流域政策局河川・港湾室の沼田です。日頃は県の河川行政の推進にご協力いただきまして、ありがとうございます。 ・昨年度一度もそちらへ行けなかったのが、今年はそちらで直接お話を聞きたかったんですが、今日も先ほどまで別の会議がありましたので、なかなか行けなくて申し訳ございません。本日はウェブでの参加になりますが、よろしくお願いします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・続きまして、若公崇敏委員でございます。
	若公	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は皆様ご参加ありがとうございます。若公と申します。去年の7月1日から事務所長をさせていただいておりますので、もうすぐ1年たって2年生になれるつもりでおります。どうぞよろしくお願いします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・どうもありがとうございました。 ・続きまして、本日の議事でございますが、議事次第2の「委員長・副委員長の選出」から「その他」まで執り行いたいと考えております。閉会は16時を予定しております。長時間にわたりますが、何卒よろしくお願いします。 ・ここで発言についての注意事項でございます。ウェブで参加いただいております沼田委員におかれましては、通常、マイクをミュートいただき、発言時にミュートを解除していただくというようなことで、これまでどおりのやり方でございますが、よろしくお願いいたします。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
2. 委員長・副委員長の選出	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、このまま事務局のほうで進行させていただきたいと思います。2番の「委員長・副委員長の選出」というところでございます。こちらにつきまして、このまま事務局のほうで進めさせていただきたいと思います。該当する資料なんですけれども、資料の1、それから資料の2をご確認ください。「レンジャーの運営体制」と、それから「委員長・副委員長の選出について」というものでございます。 ・まず、今年度の運営の体制のほうを資料1を用いて説明させていただきます。1の運営委員会の皆様でございますが、今、紹介させていただきまして、一言いただきましたメンバー5人の委員で構成を、今年度も変わらずしております。それから、河川レンジャーの皆様でございますが、今年度は表2にあります3名のレンジャーの方々で構成されております。それから、裏面の琵琶湖河川レンジャー担当者というところがございますが、琵琶湖河川事務所、それから活動支援室のメンバーが示しております、河川事務所のメンバーに変わっている者がございます。総括保全対策官の田中基幸様は去年に引き続きでございます。それから、専門調査官の長谷川様は今年度より来られました。それから、専門職の粕渕様、今日、ご欠席でございますが、担当でおられます。それから、活動支援室のほうにつきましては、変わってございませんので、また今年度もよろしくお願ひしたいと思ひます。 ・それでは、資料の2のほうでございますが、委員会規約ですと第7条に委員会には委員長を1名、副委員長を1名置くこととするというふうに定められております。それから、第2項のほうで、委員長、副委員長は委員の互選によってこれを定めるというふうにしてございます。つきましては、その委員の皆様の中から、委員長をまず選出いただければと思っております。 ・まずは、委員長の選出ということで、立候補される方がおられたら願ひしたいなと思ひんですけれども、いかがでしょうか。 ・立候補以外で他薦ということでございますと、推薦意見のございます方、いらっしゃいましたら、願ひしたいと思ひます。 ・推薦のご意見はございますでしょうか。 ・もし特にないようでございますと、事務局からいたしますと、昨年度に引き続き中谷委員長に今年度も委員長として就任いただければと思ひんですけれども、いかがでございますでしょうか。 <p>(「異議なし」「願ひします」と呼ぶ者あり)</p>
	中谷	・分かりました。
	△中西	・ありがとうございます。今後ともよろしく願ひいたします。

		・では、次に副委員長の選出ということでございますが、こちらは立候補・推薦、どちらでも結構ですので、ご意見等ございますでしょうか。
	平山	・昨年度までと同様に北井委員にお願いできればと思いますけれども。 (「異議なし」と呼ぶ者あり)
	中谷	・私からもぜひ。
	北井	・できる範囲ですが。
	△中西	・ありがとうございます。では、お二人の就任を拍手をもって。(拍手) ・ありがとうございました。そうしましたら、委員長に中谷様、副委員長に北井様に今年度よろしくお願いいたします。 ・委員長、副委員長、お一言ずつ何か。
	中谷	・先ほどと以下同文みたいなことで失礼なことですけれども、皆さんのご協力をいただいてうまく進めていければと思いますので、よろしく願います。
	北井	・同じくです。環境整備の議論も今年度入っているようなので、皆さんと相談しながらと思います。願います。
	△中西	・ありがとうございます。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 報告 (1) 前回委員会の振り返り (2) 河川レンジャー活動支援室からの報告	△中西	・そうしましたら、委員長にはお席はそのまま移動はなくお願いしたいと思うんですけれども、これより次の議事3の「報告」を進めていきたいと思うんですけれども、これより委員長に司会をお願いしたいと思えます。よろしく願います。
	中谷	・ありがとうございます。では、進めてさせていただく前に1つだけ。我々の任期について、もう一度。
	△長谷川	・すいません、事務所のほうから。令和8年3月31日までということで、よろしく願います。
	若公	・今回、今年度から毎年1年だったのを2年にさせていただいて、従前からいつまでみたいなお話を皆さんからちょっといただいているというのもあるので、少しその間には皆さん一気に変われるかどうかというのはちょっとまたありますけれども、少し考えさせていただきたいというふうに思っています。
	中谷	・分かりました。では、ということですので、早速議事のほうに入らせていただきますでしょうか。では、報告事項ですね、(1)、(2)両方関連しますので、続けてお願いできますか。
	△中西	・そうしましたら、まず事務局からの報告事項ということで、資料3をご覧ください。第71回河川レンジャー制度運営委員会議事要旨というもの

	<p>でございます。こちらのほうは、昨年度開いてから今日に至るまで、一度ご確認いただきまして、修正を加えたものでございます。</p> <ul style="list-style-type: none">・振り返らせていただきますと、まず結果のところ以降のことでございますが、前回の振り返り、事務局の報告をさせていただいたということで、勉強会やトライアルさんの実施状況について報告させていただきました。また、河川レンジャーの皆様からは、2023年度1年間を振り返った活動報告をしていただきました。・それから、4ページのほうでは審議をした結果ということで、4ページの下のほうでございますが、まずは河川レンジャーの辞任についてということで、西島河川レンジャーから提出された辞任届について審議いただきまして、解任のほうが議決されたということでございます。・それから、2024年度の河川レンジャーの皆様の活動計画の暫定版というところございまして、これについて、いろいろアドバイス等いただいたというところでございますが、皆様、ともに暫定版のほう、承認をされて、この4月・5月・6月等、活動を進めてこられております。・本日、暫定版が取れた計画についてご審議いただくということでございます。・それから、6ページのほうでは、規約活動要領の見直しということで、今も確認をいただきましたが、活動要領ですとか、委員会規約について修正するという、改正するという議論をしていただきまして、河川レンジャーの年齢の記載をするということで、「成年であること」というのを記載させていただいたというのが、活動要領の主な修正点。それから、委員会の規約では、委員の皆様任期を1年から2年に変更したというところが大きな変更点でございます。・以上のような決定事項がありつつ、その他、委員会のほうも少し運営のほうを改善していけたらとかというようなご意見等をいただいているところで、今年度引き続き検討を進めていきたいと考えております。・続きまして、資料の4のほう。前回の3月以降、事務局のほうで進めているような主なところを紹介しております。・1ページ目には、令和6年度の主なスケジュールということで、河川レンジャーの運営委員会、それからレンジャーの皆様に関わる事項、その他の広報のものということで掲載しております。・本日6月ということで制度運営委員会を記述しております。また、その後、河川レンジャーミーティング等をしていきたいと考えております。また、来月7月には河川レンジャー研修、河川レンジャーレポートの発行等を考えております。また、委員会につきましては、11月頃にもう一回、それから2月頃に今年度3回目を考えてございます。主なスケジュールとしては以上のようなところでございます。
--	--

		<ul style="list-style-type: none"> ・それから、2ページ目のほうで、河川レンジャーの募集ということで、今回も引き続き募集を続けております。今回の委員会の開催に向けても、募集中というものを出しておりました。今年度、現時点では、残念ながら応募はございませんでした。 ・それから、その他、レンジャーの皆様、4月以降も活動されておりますので、都度都度活動の支援というのは継続してやっております。 ・それから、河川レンジャーレポートですが、3月に52号というのを発送しております。参考資料のほうでつけております。 ・それから、5番目、河川レンジャーの皆様と河川事務所の皆様の意見交換会を先日5月20日に開催させていただきました。主には事務所の活動内容、それからレンジャーの皆様の今年度の活動内容を紹介し合いまして、人事異動もあって、新しいメンバーになられているところもありますので、そういった中でレンジャーさんが詳しく聞きたいようなところを意見交換させていただいたというようなものをさせていただきました。 ・簡単でございますが、以上でございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・説明ありがとうございました。 ・先ほども説明がありましたが、まず議事要旨のほうですね。これは既に委員の皆様には確認いただいているところですので、再確認といえますか、特に先ほどもありました6ページ以降の規約とかの見直しですね。 ・あとはまたレンジャーさんそれぞれの暫定版の活動計画とかを発表してもらったんですけど、関連してこの後、計画のほうを聞かせてもらいますので、そこでまた何かありましたら改めてということでもいいかと思っています。 ・特に質問とかございませんでしょうか。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・すいません、議事要旨に関してではないんですけども、支援室からの報告の資料4に関して、1ページ目の制度運営委員会の11月の委員会はこれまでと同様に中間報告という形でレンジャーさんからの報告、コメントがメインの議題になりますか。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度が少し委員の皆様の中で制度の改善ですとかという議論の時間をなるべく取りたいと考えておりますので、レンジャーさんからの報告の形を、そこで時間を取るよりも、議論に時間を取ればというようなご意見もいただいておりますので、その辺はちょっと改善を検討しております。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。そのほうがいいかなというふうに思いまして、確認させていただきました。 ・もう一つ、次の2ページの河川レンジャーの募集、トライアルもなんですけれども、これは今までの方法で同じようにやっていると、それほど

		<p>増えないんじゃないかなと思ひまして、今、コーディネーターとして活動されている方とか、河川レンジャーがつながりのある現場の方とか、北井さんの周でこの活動に合っているんじゃないかという方などに積極的に声がけしてもらわないとなかなか増えないんじゃないかなと思ひますので、またご検討いただければと思ひます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私も思いつく限り、ちょっと北で遠くなると活動自体が大変になるということもあるんですけども、ご紹介できる人がいればしたいと思ひています。以上です。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。大事なご意見をいただきました。今の募集の件と、もう一つは、委員の中でもどうしていけば活動が活性化するとか、活動自体の効率化も図らんといかんとか、そういうこともあって、ちょっとそのパートはまた関連して、今日のその他の項目でもありますので。以上でよろしいですか。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・いいです。ありがとうございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・では、次に進めます。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
4. 審議	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、審議事項ですね。初めにちょっと説明をいただいて。
(1) 河川レンジャー年間活動計画の承認について	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・では、これより河川レンジャーの皆様、今年度の活動計画ということで、一人ずつ少しお時間をいただきながら説明させていただきます。 ・前回3月に暫定版ということでご審議いただきまして、ほぼほぼ承認いただいているということもありまして、今回、少し変わったところを中心に、特に追加があるとか、アドバイスを受けて修正してきましたというようなところを中心に5分程度、レンジャーの皆様、5分程度の時間で説明いただいて、それから審議のほうは少し長めに10分程度お時間を取りまして、15分程度で一人ずつ趣味の時間を取りたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。 ・それでは、今、ご用意いただいておりますけれども、根木山レンジャーのほうから説明させていただきます。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・皆様、こんにちは。河川レンジャーの根木山です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。今年度の活動計画のほうをご紹介させていただきます。計画書のほうはお手元の資料、あると思うんですが、説明はパワーポイントのほうを使って、ビジュアルを中心にご紹介したいと思ひます。 ・今年度は野洲川の下流部・中流部・上流部、3つのエリアでそれぞれ活動したいと思ひています。 ・上流部のほうでは、昨年度一歩目を踏み出ささせていただいて、それが二

	<p>歩目になる活動になると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中流部のほうは、野洲市の「かわまちづくり」が始まっていくということで、今年度から取り組みたいなと思っております。 ・下流部のほうは、長年取り組んできたことの継続でしていきたいと思っております。 ・まず、昨年度、委員会の後で3月に、初めての上流部での清掃活動を実施いたしました。こんな感じで、7組のご家族にご参加いただいて、ごみ拾いをしていただきました。あまり川での活動の経験のない方が多かったので、「ごみが多いな」「びっくり」というような声とか、あとは自由使用のことをお伝えしたら、「そういうルールがあるのは全然知らなかったよ」というようなことが反応としてありました。基本的に天気もよくて、とても楽しい活動になったんじゃないかなと思っています。 ・これを踏まえて、今年度の上流部での活動なんですけど、この3月の清掃活動は水上レンジャーと一緒に連携してさせていただいたんですけども、今年度水上さんのほうでまた後であると思うんですけども、行政と連携した清掃活動を水上さん中心にされるということでしたので、私のほうは清掃活動とは別に低水路での川遊びみたいなことを、水辺利用みたいなことをできたらいいなと思っております。それでうまく清掃活動との相乗効果が出るような形を模索したいなと思っています。 ・実際に川遊びを試行したいなと思うんですけど、初めて活動する川なので、この間、一回ちょっと現地調査をしてきました。実は、緩傾斜護岸だったということが3月に分かって、草刈りだけすれば、水辺に割と近づきやすい川なんだなということが分かっております。 ・川の様子はこんな感じでして、ちょっとまだ深みのところまで実際ライフジャケットをつけて入ってないので、5月、ちょっと入れなかったので、また今度入ろうと思っています。安全に楽しく川遊びができるようなところがありそうだなという感じはしているので、実際にちょっと自分でライフジャケットをつけて入って、安全確認等を含めて準備をして、参加者を募集して、一回試行してみたいなと思っております。 ・一応、こんな感じのスケジュールで8月頃に一回、小規模でもいいので、まずは実際やってみて、どのくらい楽しいのかとか、どのくらい危ないのかということも確認していきたいなと思っています。 ・次に、中流なんですけれども、ここも初めての活動なんですけど、ここも野洲市さんのほうで川まちづくりが計画されています。この間、これはもう5月かな4月かな、どちらか忘れちゃったけど、実際、この赤いラインを自分で歩いて回ってきました。 ・まずは県有地が隣接していて、ここで活動している住民グループさんと整備をするベテランのグループさんと、ここを利用する親子のグループ
--	---

		<p>があるというのを市役所のほうから伺っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あと、正確な河川境界がどこなのか、僕は把握できてないんですけども、管理用道路と多分県有地との境界辺りがこんな感じなので、こういったところでも何か活動ができるかもしれないなという気はいたしました。 ・あと、低水路への侵入口はやっぱり見当たらず、立ち入り禁止になっている落差工直下からは一応入れたという感じでした。なので、いきなり低水路で活動しにくいのかなと思いました。こんな感じで、実際入ってみると、割と楽しく活動できそうな感じはあるかなと思いつつ、一応、現場だけ見てきました。 ・ここは、秋口以降で住民グループの方にお出合いして、お話を聞いて、また今後の活動、どんなことからやりかけられるのかなということ、住民さんのニーズを踏まえて、今年度中に計画できたらいいんじゃないかなと思っております。 ・下流部のほうは、昨年度来、中州学区での学区民のつどいを野洲川での行事をするというふうに前学区長がおっしゃっていたんですが、実は今年度学区長が変わりまして、ちょっと行ってみたら、かなりどんでん返しが起こっていて、大分後退してしまっていて、メイン会場は小学校ですと言いつつ切られてしまっていて、ちょっと何かやるかもしれないけどみたいな感じで、大分後退していますので、ちょっと今どきどきしていますが、一応野洲川での活動を何がしかするというのはおっしゃっていたので、こんなことは一緒に協力できますよということで、この間提案書を出して、31日に初めての会議が、実行委員会があるとおっしゃっていたので、ちょっとまだ返事をいただけてないんですけども、ちょっと何とか、せつかなのでできるようにと思っておりますが、大分ちょっとやっぱりリーダーが変わると雰囲気が変わるなというのを如実に感じております。 ・時間ですね、もうね。あと、下流部のほうは、こういう希少種もこの間ちょっと確認してきましたが、河道掘削前に住民と一緒に移動できたらなということを所長さんから来てもらえないかなみたいなことをおっしゃっていただいていますので、そういうこともしたいなと思っております。それ以外に関しては、継続の活動をできる範囲でしたいと思っております。よろしく願いいたします。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございます。では、委員の皆様から質問、ご意見等々お伺いします。どなたからでも結構ですので、どうぞ。はい、平山委員、どうぞ。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・ご発表ありがとうございます。現時点での川の利用状況を確認したいんですけども、特に中流部と上流部ではほとんど利用がないということ、いいですか。釣りとかも含めて。散歩とかも。

R根木山	<ul style="list-style-type: none"> 多分、高水敷は、兩岸とも、栗東市さん野洲市さんともに公園で占用されているので、もちろんそちらは利用者がいます。運動だったりというのはあるんですけど。低水路に入ると、この間初めて入った感じだと、ごみがすごい埋め込まれているような感じであったりとか、蔦があったり、人が入っている形跡は、多少は多分、野草取りとかそういうので入ってらっしゃる住民さんは、多分下流部にもいらっしゃるなので、上流部にもいらっしゃる可能性はあると思うんですけども、目立った活動はあんまりないんじゃないかなというふうに印象を持っています。
平山	<ul style="list-style-type: none"> 一つコメントなんですけれども、平日に子どもや地域の方がぽつぽつ川に来て水に触れたりなどの関わりができるといいなと思います。根木山さんがレンジャーとして介入するイベントだけではそういうふうにならないかなと思って、そういうことを想定すると自分たちで遊ぶときの安全確認の方法をお伝えするとか、あそこで遊んでいる人がいるから遊べるんだというふうに分かったとか、根木山さんがいなくてもちらほら人がいる上流部、中流部になればいいなと思いました。一時のイベントだけではなくて、地域の方が継続的に関わられるような工夫があると、すごく盛り上がるんじゃないかと思いました。以上です。
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ありがとうございます。ぜひ検討したいと思います。下流部でも、先生向けの安全講習とかも何回かさせていただいてきて、少しノウハウもたまってきたので、住民向けのそういうのをまたできるように考えていきたいと思います。
平山	<ul style="list-style-type: none"> ありがとうございます。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ありがとうございます。ほかにいかかでしょうか。
若公	<ul style="list-style-type: none"> 関連でよろしいですか。今のご意見で言うと、恐らく上流部とかは、川にアクセスをすることすら、なかなか難しいので、根木山さんにこういうイベントを企画していただいた際に、我々のほうとしても、アクセスを少し、せっかくの緩傾斜護岸が死んでいるのでということを見せていただくようなのがまず第一歩かなというふうに思っていますので、すいません、また連携をさせていただければと思います。 逆に下流のあめんぼう公園のところとか、この間また別のところで、皆さん多分ご存じの武田みゆきさんつながりで、守山の小学校4年生、一学年3クラスを毎日、我々もちょっとアシストして、川に、授業の中で遊んでもらうと、ものすごく楽しそうにやっぱり遊ばれて。そのときにライフジャケットと、大人と一緒にであれば、ここはアクセスを比較的しやすいので、いつでも来ていいんですよみたいな答えを出していただいたので、そういうことを続けていくのも一ついいのかなと思います。それが1点。 一方で、中流部のお話がちょっとあって、前回もご紹介したかもしれま

		<p>せんが、MIZBEステーションということで高専の整備に合わせて、なるべく平日でも人がアクセスをしていただきやすいような水辺づくりというのを、今後、令和10年に向けて進めていきたいと思っていますが。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すいません、長くなって。一方で、その野洲市の協議会で議論をしているときに、すぐ上流側に落差工があって、あそこは入ってはいかんというふうに言っていると。我々のほうから、あそこをもう少し今回に合わせて、落差を少し緩くして、様子を見ながらですけれども、入っていいような環境整備というのもどうかと考えているみたいなことを、私から申し上げたんですが、結構、地元の方が、逆に、危ないところは危ないとしてくれみたいなご意見が割と強くて、ちょっとなかなかそういうのも結構難しいなと思って。諦めたわけじゃないんですけれども、一気にいきなりなかなかできないんだなと。学校教育の中でむしろ近づくなというふうに教えているというふうな現状もあるので、なかなかその辺は一足飛びにはいかないなというのをちょっと感じているところでございます。
	<p>中谷</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。 ・ちょっと関連してなんですけれども、「危ない、近づくな」はそのとおりのなんやけど、どういうリスクがあるから近づくなと言うているのかとか、やっぱり学校でもそういうところからうまく広げていかないとと思って、私はこれから特に、子どもらがため池に遊びに行くと亡くなったりとか、悲しいことが起きているんやけど、行くな行くなと言うているよりも、一遍にはそれも行かへんのやけども、行くのやったらライフジャケットを持っていけよとかね。私らの子どもの頃はため池で遊んで、近くのスイカをいただいて冷やして食べるというのが夏の定番の遊びだったので、自分らでそういうことも、昔のことやから、大きい年代から小さい年代までそろっててね。そういう面では面倒を見ている人間がおったんですけど、勉強も忙しくなってそういうこともなかなかできんけど。うまく言い表せなかったですけども、そういう感じで、所長もおっしゃられるような、そういう環境整備というか、何かそういうことをじわっとやっていくのも、片や大事かなと思っていて。 ・ちょっとまた長くなりますけど、県管理の河川で、ストンと落ちていた前に階段を張り付けて、これは米原市も取り組んだんですけど、ピワマスが溯上しますよという魚道を造るのと一緒でね、何かそういうふうには、ここまでできたら、それはリスクがゼロになるわけではないけど、やっぱり環境としてはこうやってみんな近づけるようになりますねみたいなことを、ぜひ今のうちから地元と一緒に考えてつくってほしいなみたいな雰囲気ができるといいのかなと思って、ちょっとお話をさせて

		<p>もらいました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほかにいかがでしょうか。沼田さんの。
中西		<ul style="list-style-type: none"> ・沼田さんが、今、手を挙げておられました。
沼田		<ul style="list-style-type: none"> ・発表、ありがとうございます。上流域、先ほど写真を見せていただいたところ、水深が浅くて、比較的安全に利用できるのかなというふうに思いました。8月に試行されて、引き続き継続してできるように、試行だけで終わらずに、それ以降、来年度に向けて、検討を、琵琶湖河川事務所さんとの連携もあると思いますし、この取組が広がるように、早めに検討等もしていただけたらなというふうに思いました。以上です。
R根木山		<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ・中流って、高専ができる場所とかなり重なるんでなかったですか。
R根木山		<ul style="list-style-type: none"> ・ばっちり隣接しているような感じですね。自然の森の一部が多分高専になって、一部森が残るらしいですけども。そういう感じみたいです。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ・そこがうまく、両方がうまくいけるようなね、地元さんも割と手を入れているところやから、そういう仕組みになるといいなと思って言ったんですけども。
R根木山		<ul style="list-style-type: none"> ・市役所の方からは、その整備をされているグループの方も川のほうに活動を広げていきたいということをおっしゃっているというのは、市役所経由ですけども、ちらっと聞いているので、一回お話を聞いてみて、何かどういうイメージを持たれているのかをまた聞いてみたいと思います。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。あと何か言い足りない、これは言っておかんといかんみたいな。
R根木山		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい取組が始まっていくので、また下流部でやっていると割とやりやすい環境ができているんですけども、新しいところへ行くと本当に知らないところに入っていくので、一々がやっぱり時間がかかるのかなとか、どきどきするなというのを新鮮な気持ちで昨年度から取り組ませていただいていますので、チャレンジをする気持ちでやりたいと思います。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。下流部でもそういうチャレンジが一緒になろうかという感じで。
R根木山		<ul style="list-style-type: none"> ・もちろんそうやって人が変わると話が通じなくなるので、それはまさにそうですね。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ・そこら辺は前々から何か言ってますけど、例えば河川管理者の防災的な話と、うまく地元さんのそういうところを引っかけて、その中で何か重なる部分が見つかっていくとかなるといいのかなみたいなことになっていますが。よろしいですか、何か。

北井	<ul style="list-style-type: none"> • いいですか。ちょっと関連してお尋ねします。今年の計画を見ていると、例年、中州こども園の先生研修が続いています。川に入る人向けの指導をする人とか、付き添う人向けの研修もノウハウがたまっておられるのではと思いました。先ほどの現地確認も、丁寧にされている様子が分かりました。やっぱり水辺で遊ぶって、子どもの体験も含めてですけど、すごく魅力的やと思うので、そういうことに触れる子育てサークルとか、入りたい人向けに、リスクを減らしながら楽しめるとというのが、ちょっとご自身の計画とは違うかもしれませんが、もしかしてそういう講習会とかも考えていけそう、という気がして聞いていたという感じです。
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> • ありがとうございます。ぜひ、上流・中流でそういう方々をまた見つけてやっていけたらいいなと思います。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> • はい、ありがとうございます。そういう中で、平山委員からあったトライアルとか、何かそういうところへうまくつなげられたらなみたいな感じですね。では、よろしくお願いします。(拍手)
△中西	<ul style="list-style-type: none"> • 根木山さん、ありがとうございました。事務局から言い忘れていましたが、時間がレンジャーさん5分、委員の皆様の議論10分ということで、時間が来ましたら、ベルを鳴らさせていただきます。 • 続きまして、水上レンジャーです。お手元の資料では3ページ、4ページをご確認、ご覧ください。3ページから5ページまでですね。それでは水上レンジャー、お願いします。
R水上	<ul style="list-style-type: none"> • 河川レンジャーの水上です。どうぞよろしくお願いします。 • 私のほうはパワーポイントではなくて、お手元の資料の先ほど中西さんが言われたように3ページから説明させていただきます。テーマの確認ですけれども、「住民と行政が共に考える川づくり」ということで考えて進めています。 • 暫定のときに一応説明させていただきましたので、今回、4月・5月で調整した部分をメインで説明させていただきます。 • 4ページのほうで、まず河川清掃のほうは下流のところ、根木山さんと同じ中州親水公園なんですけれども、私のほうは河川清掃を夏と秋とやっています。夏はもう既に調整をして進めています。この部分は計画を変えてません。先ほど、根木山さんとも議論がありましたように、野洲川の中流域と上流域での活動に向けた、少し調整が進んだ部分で計画を見直しています。 • 4ページのちょうど2番と書いていますところです。1つは、中流部での活動ということで、これは……場所なんですけども、野洲市の水辺防災のステーションですね。M I Z B Eステーションで。 • これは先日野洲市のほうに話に行ってきました、どういう形でやってい

	<p>くかというので、いろいろご意見を聞きまして、暫定のときに少し説明させていただいた、ここには書いていませんけれども、皆さんの意見を聞いてワークショップを一緒にやったらどうかという話だったんですけれども、そのお話しに行ったら、まずはここを利用するような事例をやってもらおうと、そういう人の意見を聞いたほうがいいということで、ワークショップじゃなくて、そういうところで今調整をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 例えは、今さっき根木山さんが説明されたように、水の利用をして川を使うとかいう事例を立てたらいいかというのが出ていますので、私のほうは行政と一緒にやるという形を考えていますし、なおかつここは防災ステーションですね。例えば下流でやっています避難訓練の防災かまどとか、そういうのをやっていったらどうかと思っています。土嚢積みとかですね。 • 上流部のほうは、これは少し進んで、野洲の運動公園のところでは3月、根木山さんも一緒にやっていますけれども、先ほど根木山さんの説明にありましたように、私のほうは行政と住民を巻き込む、そういう野洲川の清掃活動をしようと思っています。もう既に地域住民と企業、行政、琵琶湖河川事務所、栗東市という形で、前回から変えています。だから、対象を増やして、なおかつ河川清掃とかありますけれども、これは調整によって下流でやっています。いろんなイベントとか、先ほど根木山さんの話があったように、根木山さんと連携しながらうまくやれば、ここはよりいい活動ができるんじゃないと思っています。そういう形でやっていきたいというように考えています。 • もう一つ、これは3番ですけれども、既に終わっているんですけども、これは野洲川河口部のヨシ帯再生で、私が最初の方に活動の中で行政の琵琶湖河川事務所と立命館守山中学校をつないだ分、それがほぼ終わりましたので、行政にバトンタッチという形でやっていて、行政のほうは主催でやられているやつを少し、立命館守山中学校と行政をつなぐという形で、これをやらせていただきましたので、ちょっと計画には追加していますけれども、これはメインの部分ではなくてサブで、これはあくまで行政の主催ということで、ただ行政と住民参加活動の一つとして、計画にまた今年も追加しましたので、これは載せました。 • 今回メインの部分は、中流部と上流部の、少し若干ですけど変えたという形になっています。以上です。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> • はい、ありがとうございました。 • では、今、水上さんから発表いただきましたが、委員の皆様から質問、ご意見等をお伺いします。どなたからでも結構です。どうぞご発言ください。 • 皆さん、今、見てもらっている間に私から少し。野洲市のM I Z B E ス

	<p>ーション、防災ステーション、例えば野洲市はどういう組織の人間と調整をしてもらっていますか。</p>
R水上	<p>・実は、野洲市のほうに国交省のほうから出向している人がいて、私が過去、よく知っている人だったものですから、その人が部長でしたかね。都市計画部長だったと思うんです。それと、国・県・環境の部局がたくさん集まってもらったんです。五、六人集まっていたいて、そういう部局と話をしました。ちなみに守山市はいつも国・県事業対策課だったんですけれども、栗東市の人は物すごく、守山市が……という意味ではないんですけれども、栗東市の方は非常に前向きでいろんな課が集まっていたいて。</p>
中谷	<p>・今、野洲市M I Z B Eステーション。</p>
R水上	<p>・あっ、ごめんなさい、野洲市だ。野洲市の方が前向き。栗東市も一緒なんですけど、野洲市の人也非常に前向きで。</p>
中谷	<p>・例えば幾つかのパートで出てきはったときに、例えば自分の関係することやったらこういうふうにしていったらいいね、みたいなところまでの話はまだないですか。</p>
R水上	<p>・そうですね。ただ、そのときの部長、国交省から出向される方が、実は下流のほうの淀川河川レンジャーを経験されていて、そのときの経験から、やっぱり私が提案したような、ワークショップでいきなり人を集めてやるよりも、そこのあるところのいろんな方に実際に使ってもらって、まだちょっと物ができてないからあれですけれども、今の例えば根木山さんがやるような、現状で一回川の中に親しんでもらうというようなことを河川レンジャーでやっていただいて、そういう人から意見をもらったほうが非常にいいものができるということを言われていましたね。だから、それはちょっとどうするかというのは、なかなか難しいんですけどね。</p>
中谷	<p>・そのM I Z B Eステーションというやつ地域への広め具合というのは、何かご存じの部分がありますか。</p>
R水上	<p>・言われたやつですか、野洲市さんの。それとも私の。</p>
中谷	<p>・いえいえ、そういう打ち合わせをしてもらっている中で、この水辺ステーションはこういうもので、これからこういう整備をされますみたいなことを地元でどれだけ言ってもらっているのかなというのは。</p>
R水上	<p>・まだ、これからみたいな感じですね。</p>
中谷	<p>・構想段階みたいな感じ。</p>
R水上	<p>・うん、構想段階。ただ、そうですね、構想段階ですね、やっぱり。</p>
中谷	<p>・ありがとうございます。</p>
若公	<p>・ちょっと私、補足してよろしいですか。これは事務所の事業概要で、10</p>

		<p>部ぐらい持ってきたので。うちの事務所の人間は分かっていると思うんですけども。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ページで8ページの右上のところに、非常に小さな文字で見せるようなあれじゃなくて恐縮ですけども、このエリアでこういうことを計画していきますよということを、野洲市と我々事務局でM I Z B Eステーションかわまちづくり協議会というのを、昨年3回、それから先週4回目というのをやって、計画づくりをしています。 ・ 委員の方、商工会の方とか、そういう方に3名か4名か入っていただいて議論しています。公開でやっていますので、一応、そういう形でアナウンスはしていますと。ただ、傍聴の方もそれなりにいますけれども、そんなにたくさんいるわけでもない。 ・ 実は予算のことを言うと、これからこの計画をつくって申請して承認してもらって、初めて整備を始めますみたいなプロセスになりますので、今年度野洲市のほうで主体的に、ここにどういう機能が欲しいですかみたいなことをもう少し聞き込んでいったりということをされようとしている段階だというふうには聞いています。 ・ どっちかという、役割分担、我々は下の基盤整備を担当、あるいは川へのアプローチ、アクセスを担当して、上物は基本的には野洲市さんという役割分担にはなっていますので、特に上物でどういうものがニーズがあるのかということだったら、野洲市さんが主体的にという形になっています。すいません、補足です。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい、ありがとうございます。
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・ ちょっと補足させていただきます。特に部長さんが言われていたのは、やっぱり造るのはいいけれども、持続可能な、やっぱりそれを何とかしていきたいと。だから、そのところで、例えばその地域にこだわらないと、もっと広く、いろんなところから来ていただいてもいいかなと、そういう視線で河川レンジャー活動の中に取り組んでもらうといいなというのを言われていました。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持続できるといいですね。できて、みんながそこを拠点に。はい、平山委員、どうぞ。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の関連で、活動を創出するのか、利活用を創出するのかというのはちょっと違うような気がしていて、できれば日常的な利活用のほうがメインなのかなとも思いつつ、とはいえ、今、利用者がいない、どういふように利用したらいいか分からないということであれば、イベント的にそれをきっかけとして日常的な利活用につなげればいいなところかなと思います。先ほどの根木山さんのときのコメントに同じようなことなんですけれども、そこが大事なのかなと、個人的には思いました。 ・ 初めはレンジャーが介入するけれども、レンジャーなしでそういう風景

		<p>がつくれればいいかなと思うので、そのためにレンジャーができることって何なんだろうというところが、水上レンジャーの大事な活動になってくるのかなと思いました。感想です。</p>
R水上		<ul style="list-style-type: none"> それは物すごく難しいですね。実は、それ、先ほど部長も言われていて、持続可能やから、一発花火的にやるんじゃなくて、日常的に利用されているやつをやりたいと。そうすると、私らもやるけれども、行政の市町村も何かのそこの中で利用するような形で、日常的に利用されているような形の仕組みと一緒にできればいいかなと思っています。非常に難しいですけどもね。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> 陸の上だけでなしに、例えばここを経由すれば、さっきもあつた水辺での遊びが安全にできるとか、何かそういうような拠点、八幡にさくらであい館があるけれども、あそこは陸上の話で、なかなか船が動いたりとか、水利用はあるけど、もうちょっと近いのであれば、ライフジャケットもそこに置いておいて安心して行けるでみたいな、何かそういうようなことにつながると、レンジャーさんがもっとほんまに職業的な、管理人的な人がそこに常駐するみたいなようなことも何かつながっていくかもしれんし、一遍にそこまでは無理ですけど、何かそういう水辺なので、うまく使えるようなことになるといいなと思って話を聞いていたんですけども。
平山		<ul style="list-style-type: none"> ちょっと違う話なんですけれども、3番のヨシ帯モニタリング調査を立命館守山とされている事に関して、私自身、コーディネーターの引き際ってどういうときかなというのをときどき考えるんです。今お伺いした限りでは、今、もう引いてもよいタイミングではないかなと思ったんですけども、そうではないんですか。
R水上		<ul style="list-style-type: none"> 実は、二、三年前に、そこを言われたときに、どう引き際で引くということ、一つは行政にある程度つないだから、言い方は悪いけど、河川レンジャーの役割は終わって行政と信頼関係をうまくやってもらうと。もう一つは、住民主体ということ。中州親水公園のほうは住民主体にやろうと思って、今、進んでいます。 実は、野洲川河口部のやつは、2年ほど前に渡すという形で終わったんです。ところが、行政というのは人が変わりますので、いきなりできないということで、助けてくれないかということで、河川レンジャーが。ただし、主催は向こうですよ。こちらは行政のほうですよ。私はつなぐだけですよということで、そういう形で、今、ちょっと進めておるところですね。
平山		<ul style="list-style-type: none"> 分かりました。ありがとうございます。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ほかにいかがでしょうか。
若公		<ul style="list-style-type: none"> 私、いいですか。

中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・どうぞ。
若公	<ul style="list-style-type: none"> ・さっき中谷委員長がおっしゃったみたいに、利用者の話ですけど、まさにおっしゃったように、水辺ステーションができたときに、あそこからライフジャケットとタイヤのチューブでも貸して、下流に流れていくようなアクティビティーを例えばそこでできるとか、そういうのが一番理想型かなというふうにはちょっと思っています。一足飛びには難しいかもしれませんが、まず来週かな、我々事務所の職員もEボートであそこから下るとかいうのをやることにしていますので。まず職員が楽しくないと、きっと一般の方も楽しくないよねと思いますので、そういうことをやりたいと思っています。 ・上流域での活動について質問、質問というか。栗東市との連携のイメージで、やっぱり最終的にどういう方を巻き込んでいくかというのを、何となくイメージをしながらアプローチをしていったほうがいいかなと思うんですけど、その意味で、今、水上さんがイメージされている方向性というのが何かもしあれば教えていただければ。
R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・実は、3月に今年やりましたので。栗東市の方が物すごく協力的。栗東市はもっと協力的なんです。だから、栗東市と、それから私がいつも各個でやりました企業、企業が栗東市のほうで何かあるという話を聞いてましたので、その辺のところをちょっと。何かつき合いがあるようなところがあると言っていましたので、そこも企業も巻き込んだ形、もちろん地域住民も巻き込むような形で自治会とか、そういうところを。 ・ただ、その場合は、自治会の場合は栗東市とか自治体が協力してもらわないと、どうしてもレンジャー一人乗り込んでいっても無理ですので、そういうところでちょっと実施計画を詳細なやつを今年中につくって詰めていきたいと思っています。 ・琵琶湖河川事務所の所長がおられますので、お願いしたいのは、琵琶湖河川事務所も一緒にやってほしい。取りあえず最初の頃は。後になったら、先ほど言いましたように住民主体に持っていくので、ぜひ琵琶湖河川事務所の行政のほうもつなぎに行きますので、ぜひ一緒にやるという形で一緒に汗を書いていただくということで。ずっとではなくて、それは切り替えていきますけれども、最初はどうしてもそれをお願いしたいと思っています。
若公	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。ずっと汗かくんですけど。栗東市長にちょっとお話をしに行く機会が昨年度末のほうにあって、その際に根木山さんがすてきな活動をされたのを市長にご紹介さし上げたんですね。市長のほうコメントとして、すごく栗東市は特にグラウンドになったりして、スポーツの方の利用が人数としても多いので、そういう方をうまく使るといいのにねみたいなコメントをいただいて、ああ、結構おっしゃる

		<p>とおりでなというふう思ったので。</p> <ul style="list-style-type: none"> 何かスポーツの方がいつも河川敷を使っている、でもちょっと歩入ると、すごくごみがたくさんだから、何か年に一遍でもいいんですけど、そういう方を清掃活動にちょっと引き込んで、そうするとあわよくばその子たちが夏に暑かったら、そのまま川で遊んでもらったっていいじゃないとか、何かそんなふう持って行くのも、少しアプローチとしてはありかなというふうちょっと思っていたので、またいろいろとご相談させてください。
	R 水上	<ul style="list-style-type: none"> まさに利用している人ね。恩恵を受けている人で。清掃活動にボートでやっている人とか、過去にやった事例もあります。そこは利用者の人にもアプローチします。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> 委員の皆様、ほかよろしいですか。沼田委員、どうぞ。
	沼田	<ul style="list-style-type: none"> この資料の3ページのミッション達成の具体的な川づくりの④番のところに川遊び、今、先ほどEボートとか活用されるということでしたけれども、その後に書かれている、「川の恐ろしさを伝える」という、これは大変重要だと思っていて、毎年やっぱり水難事故発生していますし、県のほうでも夏休み前に各学校に水難事故の通知等を出したり、看板を設置したりホームページで啓発をしているんですけども、なかなか水難事故が減りませんので、ぜひこの遊びと併せて、水の恐ろしさを伝えることを、レンジャーの皆さんにお願いしたいなというふうに思いましたので、意見として伝えさせていただきました。 それと、もし川の恐ろしさを伝えるのに具体的にどのような内容か分かっていたら参考に聞かせていただきたいなと思っていましたので、お願いします。
	R 水上	<ul style="list-style-type: none"> すいません、今、ちょっと聞き取れなかったんですけども、何ページで書いている部分ですか。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> 3ページ。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> 3ページのここですね。
	R 水上	<ul style="list-style-type: none"> この水遊びで川の恐ろしさを伝えるというのは、これは特に細かいことは考えていないんですけども、洪水が起きたときに、逆にそういうことが危ないということで、過去には伝えてきました。だから、こういうところで避難するのはどうするかということでしたけれども。ただ、委員の言われるように、そのところをどうしたかというのは、そういうところは何らかの形で伝えていきたいと思っています。 ちょうど今、私が直接関係ないんですけども、私がちょっとほかの仕事をやっていると、隣に水の怖さの水の啓発展示がありますので、それと同じような形で、そういう川の怖いところも現地で伝えていきたいと思っています。

若公	・分かりました。ありがとうございます。
中谷	・ありがとうございます。では、水上さん、計画に沿って活動のほう、よろしくをお願いします。
△中西	・水上レンジャーありがとうございました。続きまして、野村レンジャーのほうの計画の説明をさせていただきます。いましばらく準備のためお待ちください。野村レンジャーのほうは、資料の6ページ、7ページでございます。
R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・失礼します。いつもありがとうございます。野村でございます。今年度の活動について説明させていただきます。よろしくお願いたします。これは2月に探検隊のまとめをつくっているときの写真です。 ・私のテーマというのは、「川を守り育てる意識と行動を引き出す」ということで、主体者である住民が川と関わり方を自分で考えて行動に起こしていく姿というのを目指しているところです。 ・瀬田川の河川管理というのについては、1年間つき合ってきたんですけども、まだまだ関心があまりないのが住民さんたちの現状だなというふうに感じております。それで、いつも言わせていただくように、住民の川への思いを育てること、関心を高めることというのがまずは大切で、そのところに私はアクセスしていきたいなと考えています。 ・そのような思いから昨年度レンジャーになりまして、「瀬田川たんけんたい」の活動を始めました。この活動を地道に続けていって、この活動自体が住民に認知されて、住民が主体になった活動に育っていくことを目指しています。 ・昨年度の成果として振り返りアンケートをさせてもらったんですけども、関心が高まったこととか、出かける機会が増えたとかいう話がありましたので、こうやって関心を持つ人たちを少しでも広げていきたいなと思います。 ・ただ、前にも言わせていただいたように、「私がやりましょう」「はい、おもしろかったね」みたいなそんな活動にならないように、今年は言葉かけなど考えていきたいなと思っております。 ・根木山さんや水上さんのやっておられるように、今年もまた住民さんの思いを聞き取ったり、それから立場の違う人たちの思いをつないだりという活動を意識してやっていきたいなと思います。 ・いろいろな方が瀬田川に関わって川の良さに気づく機会を増やすことに取り組んでいきたいなと思います。 ・そこでワークショップなんですけれども、これは5月25日に行ったもので、12名の参加がありました。昔のことも話していただいたんですけども、今でもやっぱりこの瀬田川のこの唐橋の周辺で、川とともにある暮らしが、あんまり意識していないけど続いているんだなということ

		<p>参加者さんたちが感じていただけるようにお話をしたつもりです。振り返りには、実際にしじみ貝を触ったり、生きているんだなということを感じたり、それから水位計測を、これは水上さんに講師として関わっていただいたんですけれども、計測したのがすごく心に残って、体験できたのがよかったというふうな声がたくさんありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それから、今、計画しているのは、8月に外来魚釣りのイベントをやろうと思っています。洗堰周辺で外来魚釣りを体験して、その後、外来魚を解剖して、どんなものを食べているのかとかいうのを見て、これは水産試験場の方の協力をさせていただいて、資料を準備していただくとか、話をどんなふうに持っていきこうかということ相談しているところです。 ・成果目標は去年度と変わってないんですけれども、こんな感じです。瀬田川のよいところと同時に課題にも気づけるような言葉かけをしたりとか、材料、そのきっかけを用意したりしたいと思っております。 ・「たんけんたい」が今後、住民主体に移行していけるようなイメージを持ってやっていきたいです。教科書については一部入手できましたので、今、整備を始めているところです。 ・「たんけんたい」の募集チラシになります。今回は住民センターのチラシ配架、SNSの告知で募集しています。まだ空きがありますので、応募者が増えることを期待しています。 ・工程計画どおり今のところ活動を始めております。今後ともご協力いただけますよう、よろしくお願いたします。ありがとうございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。いろいろ幅広いメニューを考えて取り組んでいただいているんですが、委員の皆様から質問、ご意見等をお伺いいたします。いかがでしょうか。 ・ちなみに募集中ですけど、どの辺の範囲に募集をかけてもらって、今現状その枠で何ぼぐらいというのは。
	R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・「たんけんたい」の参加者だった人たちのファミリーが1組と、唐橋周辺のまぢめぐりに来られていた方が1組です。なので、1組は彦根の方、1組は別の方、南郷小学校の方です。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・6月中は募集ということなんですかね。
	R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・一応、9日で締め切りをしようと思っていて、ちょっとあせっている感じです。あわてて、この間、先週末に南郷小学校にチラシを追加印刷していただいて持っていったんですけど、反応がなく。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・せっかくの機会だから。それはちょっとあれやな。去年の状況と今の状況と、その背景は何やろうと、何か考えられたことはありますか。
	R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・そうなんですかね。何か、去年の参加者さんは来たいと言っていてくださったんですけども、募集をかけたときには公民館しか持って行って

		<p>なかったので、公民館の方が随分変わられていて、去年までの公民館の方々は、リピーターの親子さんに声をかけたと言っていてくださったんですけども、今回、そういう感じでもなく、置いてあったからかもしれない。</p>
	中谷	<p>・やっぱりそういう体制のあれやな、その学区長さんみたいなのが変わっちゃうと。</p>
	R野村	<p>・この間、違うことで、南郷小学校の4年生の担任の先生が対応に来られて、お話を聞かせてもらって、こういうことを川に関わってしたいとか、どんなことができるやろうかという、相談の場に私はいたんですけども、この「たんけんたい」の話をしたら、私が行きたいわといって先生は言っておられましたので、ぜひ行ってくださいって言ってたんです。</p>
	中谷	<p>・せっかくの機会なのでね。いかがでしょうか。</p>
	北井	<p>・では、ちょっと確認をいいですか。一応、6月9日締め切りでとおっしゃっていたのですが、何かもう少し伸ばすとかいろいろ対応されたりとかはされるんですか。確保すること自体が目的というより、内容からいろいろお伝えしたり、関わり合いができるということも大事なことだと思うので、どの程度延ばせるか、というのはご自身の運営の目標と折り合いつくところがいいのかなと思うんですけど。初回が7月で、余裕はあるとしたら、ちょっとそういうこともどうですか。</p>
	R野村	<p>・そうですね。私もそう思っています。延ばしたいなと思います。また、せっかく南郷小学校と、小学校の先生と知り合いになれたので、そのところにちょっとお願いをしてみようかなと思います。</p>
	北井	<p>・一応、連続参加を基本想定の企画ですものね。</p>
	R野村	<p>・そうですね。今回は、定員のある1・2回の部分はちょっと無理なんですけれども、3・4回の部分は定員がなくても大丈夫なので、それは単発でも結構ですという案内は書かせてもらったんです。なので、つき合いのある方とか、今までイベントに参加したりの方には、その都度、メールをしようと思っています。</p>
	北井	<p>・何かこう、つながりが、そういう先生が興味を持ってくれはったように、ご一緒されたりする方が増えてくるといいですね。活動の基盤ができてくるので。</p>
	若公	<p>・関連で。すいません、私も去年はたくさん、私も初回だけ参加させていただいてたくさんいらっしやったので、今年も皆さん集まるものと思ってあんまり気を配ってなくて申し訳なかったんですけど。事務所としてもご協力できることがあれば、また別途ご相談させていただきたいと思いますが、あんまり小学校にアクセスがあるかという、必ずしもなんですけども。田上は比較的エコクラブとかつながりがあるので、少しアプローチできるかもしれませんというところで、ちょっとまた別途</p>

		<p>相談させてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページだのツイッターだの、そういうのは幾らでもやるんですけども、地元にとれくらい効果があるのか、やれることは全部やったほうがいいかなと思っていますけれども、というふうに思っています。 ・ただ、毎日洗堰の放流量を上げているので、近隣の方が以外と結構見てくれているかなというのもある。最近すごく柔らかいものも、事務所の職員、なるべく柔らかいのを上げようねということで、アクア琵琶の非常勤の方とか、すごく一生懸命やってくれているので、それもぜひご紹介させていただきたいなと思います。ありがとうございます。
	R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・今、所長からちょっとお話が出た、近隣のそういう団体とかはどうか。言い方があれやな、ややこしいな。ご存じ、例えば向かい側でやっているようなホテルの学校とか、さっきあった田上のところとか、何かその辺とか、あとボーイスカウトとか、去年は信楽で生き物調査をやったあたりとか、そういうところを、また支援室から何かそういう情報があればお知らせすれば、何か関連で出てくるかなという気もしますが。また、せいぜいそういう機会を。
	若公	<ul style="list-style-type: none"> ・年に一遍、瀬田川も一斉清掃とかやっています、あのときって、自治会にお声をかけて、若干強引気味に参加してもらっていると思うので、そういうルートも多分あると思うので、それが一番何となくいいかなと思いましたが、ちょっとまた終わったら相談させてください。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が増えたらいいなと思いつつ、ちょっと違う話なんですけれども、今年度の成果目標の2つ目で、「参加者の川への思いの深まりを『見える化』する」とあるんですけども、これはどういうイメージですか。
	R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・去年の探検隊のときは、ふわっとこう、子どもたちの感想を聞いて、「じゃあ、次ね」という感じだったんですけども、やっぱり何か書いたものを残していくとか。「この間、あなたはこうやったけど、今日のやつでやって、見方が変わった？」というふうに返してみたりとか、そんなふうにして自分の変化を子ども自身が意識できるような、何か足がかりをつくりたいと思います。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・これは、「たんけんたい」参加者にするので、親子の思いが出てくるイメージで良いですか。
	R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね、親御さんも何かしていただくといいと思います。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりました。ちょっとコメントなんですけど、見える化をすると、この人はこう思っているけれども、私はこう思っているみたいな、ちょっと違うねとか、私もそう思ったみたいな、そういう会話が生まれるのがいいかなと思いましたが、話すツールとしても使えるかなと思いました。以上です。

R野村	・ありがとうございます。
中谷	・ほかにいかがでしょうか。
若公	<ul style="list-style-type: none"> ・「たんけんたい」、人を集めて活動というの一方で、持続可能性の話も当然念頭に置かなきゃいけないという中で、去年だったか、野村さんの活動を手伝ってくれる人がねというのもあったと思うんですけど。 ・去年も議論になったかな。例えばその近所で滋賀大学があって、教育学部があって、先生の卵がいて、多分先生は先生になったら、まさに野村さんがやっておられるようなことを、考えてやらなきゃいけないということで、一緒に伴走していただくにはとってもいい活動じゃないかなと思うので、私、あんまりつてがないんですけど、ある程度参加者のめどが立ったら、こういう活動をするので、ぜひ一緒に見ませんかみたいなアプローチをちょっとできると、そういうきっかけになるかなというふうに思いますので。 ・野村さんがぽこっと行ってもしあれでしたら、私も何のつてもないのであれですけども、何となく、地元の所長ですとか言って、どれだけあれするか分かりませんが、ちょっと行ってみるとかというの、ぜひあれでしたら、一緒にやりませんかということで、コメントさせていただきます。
平山	・滋賀大でちょっと働いていたことがあるんですけど、滋賀大の環境総合研究センターというところに市川先生という、もうご存じかもしれませんが、環境教育に現場におられる先生がいらっしゃるの、情報提供です。
若公	・市川先生ですか。
平山	・市川先生です。
若公	・紹介状を1本書いてもらったら。
平山	・覚えてもらっているか分かりません。私が学生の頃にお世話になったので。
若公	・ああ、そうですか。
中谷	・いいですね、何かそういうつながりがうまくいくといいですね。
R野村	・では、ありがとうございます。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・野村さん、また活動のほうよろしくお願いします。(拍手) ・では、一通り計画を発表いただきましたし、もちろん、これ、承認したということ言うんですね。
△中西	・一応、そうですね。
中谷	・ですよね、審議事項やから。では、皆さんの活動を承認するというので進めてもらうことにしましょう。よろしくお願いします。
△中西	・では、3名のレンジャーの皆様の年間活動計画承認ということで、今後

		の活動、よろしくお願いいたします。また、支援室のほうも支援のほうを頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。
--	--	---

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
5. その他 (1) 河川レンジャー活動継続に向けた環境整備について	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・では、次に、もう早速ですけれども、続いて進めさせてもらいましょうか。「その他」の項目ですね。
	△長谷川	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、2人の河川レンジャーの方がおやめになられました。そういうこともありまして、今年度は継続的な河川レンジャーの活動の支援について検討いたしまして、何がしかの見直しをできないかということを考えているところでございます。詳細については支援室のほうから説明させていただきます。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きまして、支援室中西でございます。 ・手元に資料6をご用意しております。また、説明の中では、参考資料の4に活動要領というものがあまして、参考資料4も見ながらということになると思いますが、河川レンジャー活動継続に向けた環境整備についてということで、昨年度、当初は5名のレンジャーさんがいらっしゃったわけですけれども、お二方お辞めになられたということもあり、今後の河川レンジャーの継続のことも少し心配な点もあまして、どういったところで、活動について支障があるのかとか、やりにくいところがあるのかというようなところも見直していくべきかなというふうに支援室でも思っております。 ・そんな中で、少し見直しができるかなというところを書かせていただいております。 ・河川レンジャーの皆様、お忙しい中活動されていて、その中で時間を有効に使いながら活動されるわけですけれども、活動と併せて、事務的なまとめみたいなのところも、時間的に必要になってきていることとございます。 ・また、そういった中で、私どもも、一回当たり、4時間以上やったださいよとか、月に4回活動して、それを報告していただいたら、月の報告になるのだというようなことを、少しがんじがらめになって、レンジャーさんにお話をしたりしているところがこれまでございました。 ・活動要領を見ても、そういう一定の時間をとかいうのは書かれてないこともあります。活動要領に書かれていることは、月1回の報告は提出するものとするというようなことは書いてあるんですけど、そういったことで少し、こちらはルールを厳しくしてしまっているということも考えられますので、少しそういう部分を緩和した報告のやり方でもいいのではないかなというようなことを見直したいなと思っております。 ・具体的には、2番目、資料6の2の「河川レンジャー活動が継続しやす

い環境整備にむけて」というところに書いておりますけれども、具体的な課題というところで、「(1) 活動について」でございますが、現在の活動は毎月コンスタント、これが今、説明したようなことですのでけれども、慣例になっているんですけれども、それぞれのレンジャーの皆様は、月ごとに濃淡がございます。これは計画を提出してもらった工程表を見ると明らかなんですけれども、集中しているときとそうでない時期が見えています。そういったところで、その濃淡も考慮した上の運営支援というのが、していかないといけないのではないかなと感じております。当然といえば当然と言われるかもしれませんが。

- 2つ目としまして、活動報告なんですけれども、月間活動報告の様式に従って記載していただいております。これが原則一活動当たり4時間以上となるようにまとめてくださいというふうにしてはおりますが、またこれが少し活動を悩ましているようなことになっていやしないかなと思っております。
- それから、その活動報告も、どんどんどん詳細を求めていって、分かりやすいようにもう少しお願いできませんとか、写真を追加してくれませんかとか、そういったことになっているんですけれども、この月ごとの報告というのは、ある程度、レンジャーさんが記録に残したいというふうな意思のところを尊重して、簡潔でもいいようなふうに持っていければなということで、活動の時間の考え方の在り方ですとか、活動報告の在り方を少し見直すと、もう少しレンジャーさんも精神的にも負担が軽くなってスムーズに活動できるんじゃないかなと思っております。
- そういったことで、今すぐにこういうふうにやりますというのは、なかなか言えないんですけれども、今日の委員会をきっかけにこの6月に、裏面のほうですけど、進め方としてはレンジャーにもヒアリングをしていって、こういうやり方でどうかというようなことを定めて、来月、7月以降の活動から試行的にそういった報告の様式ですとか、時間の振り方というのを緩和していくといいますか、レンジャーさんの活動に合ったような、活動時間に合ったような活動にしていけるようなことを試行できればなと思っております。
- そういったところで、この委員会の審議事項になるのか、そういったところなんですけれども、規約ですとか、活動要領に係るようなところになりますと、審議事項というところなんですけれども、ここは運用という面で、委員会にこういうやり方を報告していく中で、助言ですとか指摘をいただいで、修正していくというようなことで、今年度、見て来年度はそれを本運用にしていくというようなことを考えたいなと思っております。
- 必要に応じては、細則みたいなものをつくったり、解説というようなもの

		<p>のをつくって、どのレンジャーさんでも共有できるようなペーパーをつくらないといけないかなと思っております。そういったことで、今年度少し運用のほうで見直しを考えていきたいと思えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明としては以上でございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。今も1枚目の1ページにありましたように、割とかつちりと時間が書かれているという中で、今も説明がありましたように、それが活動全体を考えたときにその区切りが足かせになっている部分もあったりすると、せつかくの活動なりがもたないというようなこともありますし、今、説明がありましたように、やはりそういうスタイルについては、常に考えてうまくいくようにということは大事だと思うんですが、片やそういう条件で仕事をしてもらっているときに、どこまで許されるのか的的なこともまた反面出てくるのかということもありますし、なかなかこう、会社に勤めて、これだけの時間でこれだけのものをつくってくださいというようなものではないので、そこら辺はうまく考えていかんとあかんのじゃないかという気がするんですが。 ・そういう面で、フローにもありましたように、順次、いろいろ意見を聞かせてもらいながら考えていくべきことではあるなというふうには思っております。 ・なので、先ほどフローにあった、レンジャーさんへのヒアリングというのは、これは誰がヒアリングする予定ですか。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・今のところ支援室のほうで、状況ですとか、今、ここに掲げているような時間のこととか、活動のアンバランスをどのように年間活動計画として支援していくのかという話もございませし、個別でいろいろな面もあると思えますので、そういったことも含めてヒアリングに行ければなと思っております。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・レンジャーさんそれぞれにスタイルが違うので、そやから、時間配分なりにしても、もちろん相手にしているところも違うので、その辺があるんですけど。ちょっとこういうことを考えるに至ったところは説明してもらったんですけど、レンジャー経験のある平山委員からすると。いきなり振りますが。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・もちろん、レンジャーが手続的なこととか報告に関して効率よくできるようにということと、活動そのものに時間を使えて、活動の中身が豊かになることというのは大事なことなので、そういうふうに変えていったほうが良いと思えます。 ・ちょっとだけスケジュールで気になるのは、ヒアリングをするのが今月、次回の委員会11月で、その内容についてはここではあまり議論せずに、支援室にお任せするというのでいいのかなという気になっていませ。

中谷	・ちょっとそこは気にかかってて。
平山	・レンジャーさんからいろいろご意見が出てきたときに、関連して一緒に変えたほうがいいことも出てくるかもしれないし、これをこうするなからこっちもこうしておかないと、みたいなこともあるような気がします。試行的に動かしていただくのはいいにしても、一度ちゃんとこの委員会で議論したほうがいいかなというふうに思います。
中谷	・議論の前に、もうちょっとフランクに運営委員会とレンジャーさんと、もちろん支援室も含めて、そういう機会があるべきなんじゃないかというの思っていて、そやからあわてて決めてしまわなくても、詰めるところは順番に積み重ねていくのが大事かなと思ってまして。
平山	・もしくは今すぐちょっと変えたいということが今日挙げられているのでしたら、それを今日決めなきゃいけないのか、大事なことだけ書いてもらえれば大丈夫ですと、今、ここで合意すればそういうふうに変えてもらってもいいと思います。何よりもレンジャーさん達が活動しやすくするというところが一番かなと思います。
中谷	・そうですね。
北井	・私、委員が長いので、当時のことから振り返って、ちょっとだけ共有してもいいですか。
中谷	・はい、お願いします。
北井	<ul style="list-style-type: none"> ・4時間という目安ができた前ぐらいから委員でいるんですけども、以前、活動報告の中で実際にレンジャーの活動なのかどうか、と疑問符が付くようなものもあったことがあります。委員会では紙で見ているのがほとんどで、中間の報告と最終報告でしかお話を伺えない部分もあるので、書類ベースではつかめないところがある。 ・しかも、活動目標として成果物をつくるような活動があったとして、最終年度末に仕上がるのですが、委員会としては3月頭ぐらいに暫定の活動報告の評価を聞くんですね。例えばアンケートをまとめていますとか、情報が見られるリストをつくっていますなどです。その時点では、最終成果物にはたどり着かない状態で、結局、それが実際、事務局に提出されているのかどうなのかというのも分からなくて、そうなる次の再任のときの審査の採否に関わってきたりします。最終的な状況がわからず、再任の審査で初めて聞くこともありました。 ・ということもあって、やっぱり月間の活動報告でしっかり活動実態が分かるようなものが共有されていることって、比較的大事なことだなという積み上げがあったかなという気がしています。そこでしか見られないというのがまずあるのと、というところかな。 ・それで、アンケートとかも日頃の活動が大事というのはよく分かった上でやっていたので、ただ聞いたことをまとめていかないと、その人だけ

		<p>の中にばかり残っていて、そういう状況というのもきちっと伝えてもらうことが大切。琵琶湖河川レンジャーの活動は河川事務所のほう集めた声を伝えて、それらが河川行政に反映されるというのが本来なので、そこをどう担保するかとかいうところが多分報告書の背景にあるかなというふうに思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • どんどん書類が重くなってしまうこととともに、活動時間の濃淡についても議論に上がっているんですけど、謝金との兼ね合いとかで、なかなか議論が深く煮詰まらないまま来たのかなという感じです。その辺が一番大きい活動報告書の、程度によって考えないといけないところというのは、そこにあるのかなという気がします。 • 今、すごい感想とか、苦労したところも含めて書いてくださっていて、状況がつかみやすくなっています。実際、そもそもそれが差し戻しがあって、その上で仕上がったのが来ているんやったら、本当に大変な作業をしてくださっていると思うんですけど、そういうところをどう担保して、月々の報告とか、共有を考えていくかというのが必要かなと思っているところです。 • なので、ちょっとそういう意味で、ヒアリングから、そのものの試作をつくるまでには少し検討が必要かなという気がいたします。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> • 活動報告書の中で、私が個人的に最低限書かないと思っていることがあって、それはコーディネーターとしての活動なので、誰と会って、どういう話をしたのかとか、どういう場に行って、どういう声を聞いたのかというところを箇条書きでもいいので、記録に残しておくことというのが一番大事かなと思っているんです。 • 今日のご提案だと、河川レンジャーご自身が記録に残したいことということなので、そこは曖昧になっているんですけども、もう少し、こちらが知りたいこととして、今日ここで共有しておいたほうがいいのかと思います。 • もう一つ、コーディネーターがほかの仕事と違って特殊なのは、4時間ずっとやればいいのかということではなくって、こっちと連絡を取って、こっちと連絡を取ってみたいなこまめな作業を同時並行で回していくような感じがあったりして、そこが時間ではなくって、価値として認められている、それに謝金が支払われるというのは、すごく貴重な制度だと思うので、時間で縛らず、成果物でよみたいなので、担保するというのが一番分かりやすいし、説明しやすいかなと思います。 • こちらが求めているものさえ担保できれば、文章化しなくても箇条書きで並べられていればいいのかと思います。文章化するところにエネルギーを使うところもあると思うので、メモ書き程度のものでいいかなという、個人的にはそう思っています。

中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・そこは賛成ですね。文章になっちゃうと、何か主張がどうやというか、割と書いた人の思いと、受け取ったほうの思いとまたずれちゃうかもしれないし、実態として、今、話があったように、誰と誰でこういう点について確認しましたとか、何かそういうことが並んでいけばそれはそれでいいんだろうなという感じだね。それはそう思いますね。 ・あと、ただ、制度として謝金を払っているために、どこかに時間的なことが入っているのかという、そこら辺やね。
平山	<ul style="list-style-type: none"> ・私が河川レンジャーをしていたときには、週に何時間、4回必ず報告書を出すこと、1回1万2000円のような感覚だったと思います。今見たらちょっと値段上がっていて、「おっ、どこで変わった」と思ったんですけど、値段が上がったことは全然いいんですけど、その謝金の金額における時間の想定がもしかしたら事務所の中にあるのではないかと思いました。
北井	<ul style="list-style-type: none"> ・4時間も委員会で出た。
若公	<ul style="list-style-type: none"> ・多分、技術者単価が上がっているとか、そういうことなんだと。
平山	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね、そういう単価で。
北井	<ul style="list-style-type: none"> ・4時間が目安になったのは謝金との整合性として整理された気がしますね。 ・同じなんです、同じ濃淡、もちろん熟度が違って同じ。それはいいと思うんですけど、どれだけ取り組まれてても、どうだろうというものであっても、やっぱり同じ基準の単価で、しかも本人が休止しますということと言われたい限り、出してこられてたら、ずっと支払われます。そういう仕組みのためどう報告を受けるかというところの基準の議論をしたという気がしています。
平山	<ul style="list-style-type: none"> ・これは駄目ですって。
北井	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっと活動があまりできていないので今月はストップですということはないです。本人が休止を言われたい限り、任期の間は謝金が出るというところがあります。
若公	<ul style="list-style-type: none"> ・どこか値段が書いてありましたっけ。
平山	<ul style="list-style-type: none"> ・募集要項のところに1か月6万円程度と書いています。
若公	<ul style="list-style-type: none"> ・多分、技師単価か何か。
中西	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。
若公	<ul style="list-style-type: none"> ・何となく今、2点、活動報告の話と時間の縛りの話があって、今後、事務局のほうでレンジャーさんとヒアリングいただくというところにあれしたいと思うんですけど、何か今の時点で、何かこれうっとうしいなというのがもしあるのであれば、何かせっかく皆さんお集まりなので、レンジャーの皆さんから何か、本音で構わないと思うんですけども。せ

		<p>っかくなんで。</p>
R水上		<ul style="list-style-type: none"> ・水上です。今日、何か、先週も内容、話を聞きましたけれども、一つは委員長のほうから、委員のほうで議論していただくのはいいんですけども、これは本音で言いますと、物すごく時間がかかるんですね。そしたら、結局、できるのが極端に言うたら来年になっては、私は今、これは前から思っていたんですわ。やっぱりどうしてもだんだんレベルが上がっているというのは思っていたから、これをやってもらうというのは出してもらったから、ちょうどええなと思っていたんですね。だから、これは審議事項に、今、入っていませんから、これはやり方を、今日、これぐらいやったらやってくれと。それで、試行でやってみて、その結果どうかというのをやっていただくと、非常に我々として試行もできますし。 ・やっぱりこれは試行でやってみないと、どういうあれが出てくるか分からないから。最後に判断していただいて、これをルール化しておくとかいうのをちゃんと示していただいたらいいかなと思ったんです。やりながらやっていると、いろいろな意見があって、結局はまとまらなくて、結局時間ばかり食ってしまうから、そこはちょっと。特に、審議事項に書いてませんので、そこはしていただきたいなというのと。 ・私また、ここに書かれてなくて、明文化、やっぱり本人は今まで慣例的にやっていると書かれていますので、明文化をちゃんとしておかないといかんと。そのときは当然、審議事項としてやっていただきたいというのものもあるんですね。 ・それと、ヒアリングはやっておいてもらう。ここでは、本年を皆言いにくいでしょう、公開の場で。本音のヒアリングをできる場を設けてほしい。今度、設けられるみたいな感じですけどね。そこは。 ・それと、さっき言いましたけど、早くやっていただかないと、私らせっかく今、困っている部分だと思っているんです。私のほうとしては。私はそれだけ。
	北井	<ul style="list-style-type: none"> ・その困っているところはどこの部分ですか。4時間縛りに困っているのか、書類の重みのようなものなのか。それか何か分からないですが、今のところの修正などが返ってきているようやったら、そういうところとかいうことなのか。どこの部分とか。
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・困っているところは、私はどっちかというのと、もうある程度やっていると分かっているんですね。新人の人が入ってきて、やっぱり相当負担になっていると。 ・平山先生が言っていたように、活動報告書をつくるのが河川レンジャーの活動ではないんですね。メインはやっぱり現場とかいろんなところで活動するんだと。それは、特に月報みたいなものは日報と一緒に、

		<p>つなぎましたと、で、いいと思うんですよ。それを、大変失礼な言い方やけど、委員会のための審査の項目として上げてくるというのは、それは河川レンジャー活動ではないと思っているんです。審査するためにこんな資料をつくるというのは違うんじゃないかと私は思っているんですけども。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕らも百歩譲ってやるんやったら、支援室がいますので、支援室の人に手伝ってもらって一緒にやるということだけれども、だからそのところでまず困っているのはそうなんです。 ・それがさっきも言ったように、活動が4・5・6、均等してないといかんのですわ。毎月報告せないかんから。私の場合、例えば11月、先ほど説明しましたように、ピークがあるんですよ。そやけど、それを前に持ってこないとかかんから。
	北井	<ul style="list-style-type: none"> ・濃淡があるということ。
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・均等になるような計画を考えないとあかんのですよ。本末転倒なんですよ。
	北井	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっと休む月もありますものね。
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・そうそう。実際に働いている人やったら、そういうところで忙しいところはこっちでやるとか、いろいろな、こう。河川レンジャーはそうですからね、掛け持ち、働きながらできるやつやから、そこをきちっとやってもらったほうが非常にいい。 ・それで、さっき言いました月間活動報告は、まあ月報みたいな感じでやっていただいたらいいので。 ・ただ、年間の活動報告、年間の活動計画、あれはきちりやらないと駄目です。そのときに審査もしてもらいますので、そこは私はきちんとやればいいのかと思っています。 ・それをすべてきちっとやるというのは、相当負担がかかります。例えば、あの活動報告って、私がしたときに、まあ4時間、5時間はざらにかかります。写真貼りつけてせなあきませんのでね。やりながら、これ、本末転倒じゃないかと思ったんです。そういうことで、私のほうからは、ちょっと長くなってすみません。皆さん何かあったら。もう私が全部言ってしまったか。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。できるだけ報告書は、僕も長くさせていただいているので、忙しいときは遅れたりするんですけども、書くのが務めかなと思っています。 ・ただ、一つあるのは、水上さんもおっしゃったように、シーズンによって忙しさに違いがあるので、少しそこをメリハリを柔軟に融通が利くことがありがたいというのが1点、私からのリクエストになると思います。
	R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。反省をしています。だらだらだらだと。思い

		が入ってしまうんですね、私の場合は。なので、もう一度、コーディネーターの役割というのを考えてやりたいと思いますけど、確かに時間はかかっています。
	北井	・何か整理になるから書いていたほうが良いということならよいですが、大変つらい中やってくさっているようだから、要点、箇条書きでも私もいいんじゃないかと思います。何か書いて整理になっている方もいらっしゃる、面もある人も、多分なきにしもあらずなので、そこは個々人の判断というか。
	R水上	・今、必須になっていますからね。
	北井	・そうですね。
	R水上	・そこは柔軟性を持たせていただきたい。
	北井	・活動量がね。量が必須になっているのと、報告のつくり、書き込み方。
	R水上	・私のを見本に、新しい人を、こんな書くんですよと言うたら、相当かかるみたいですね。
	北井	・丁寧ですものね。
	若公	<p>・いいですか。お話をちょっとお伺いして、なかなか本音で聞かないと、今の話題も本音を言ってもらったような気もするんですけど。時間の縛りとか、月ごとの波とかいうのはおっしゃるとおりだと思うので、そこは何か最後に年間を通じてちゃんと成果というか、レンジャーらしい活動ができていれば波があったって別にいいんじゃないでしょうかということ、ある程度担保できるのかなというのを思うので、私もそこはあんまり縛りたくないなと思っていて。</p> <p>・月の報告はやっぱり月単位で謝金をお支払いする都合もあって、引き続きお求めしたほうがいいのかと思う一方で、その報告の内容というの、あんまり箇条書きが楽な人は箇条書きで誰と会ってこういう話をしたとかってということでも、私は構わないんじゃないかなという、今、印象を受けたので。</p> <p>・それをまた次の委員会まで、試行をしないでという時間がかかってというのであれば、何かその各々のこんな感じの報告だったらいいんじゃないというスタイルで、例えば報告をしていただいて、次のときにそれを全部見せたくないと言われるとあれなんですけれども、逆にそれをお見せしていただいて、あっ、これは全然いいじゃないですか、これでということで、そのままそれを続けていただいたらいいし。ちょっとやっぱりもう少しこうしたほうがいいんじゃないでしょうか。そこに、例えばものすごくたくさん頑張って活動された月と、ちょっと今月はいろいろ仕事の関係とか、そもそも季節的にあんまりイベントもないしというので、大してありませんでしたという濃淡があってもそれはそれでよるいいんじゃないでしょうかというような、そんな方向に持っていい</p>

		<p>ていただけると、非常に時間もったいなくないし、いいのかなと思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私もレンジャーさんの活動報告を、昨年度、あんまり私のところに持ってきてもらってなかったりとか、すいません、持ってきてもらっていてもあんまり見れてなかったりしたかもしれませんが、正直あんまり私は見れていなくて、でもぜひ見たいというふうに思っているの、そういう形にさせていただくと、非常に試行というのもスムーズにできてよろしいんじゃないかなというふうに思いました。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。沼田委員、何かありますか。
	沼田	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね、月ごとの報告という、なかなか一月で成果がすぐに上がるものではないと思いますので、報告書としても取りまとめがしづらいかないと思いますので、先ほどから出ています簡条書き等でも、私らもらう分については、たくさん書かれていても、ポイントとなるところはここかなというふうに見ていますので、簡条書きで十分かなというふうに思いました。以上です。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。
	若公	<ul style="list-style-type: none"> ・1点、すいません。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、どうぞ。
	若公	<ul style="list-style-type: none"> ・実は、私も、これ、もしあれやったらちよん切ってもらったほうがいいんですけど、整備局のほうから毎月、私の場合だと、国会議員の誰と会ったとか、首長の誰と会ったとかいうのを、エクセルで簡単なメモだけ報告するように。でも、それが多から頑張って活動したかという、結局そうではなくて、結局、事務所としてそういう事業が進んでいるかどうかと見られるので、何かそんなイメージにも近いのかなというふうに思いました。 ・ただ、1点ちょっと気にしておかないといけないなと思っているのは、河川財団さんもしくはうちの事務局をお願いをしたいのは、淀川のほかのレンジャー制度で、ちょっとどうしているのかというのは、琵琶湖のレンジャー制度だけやたら緩いぞみたいな感じで言われると、ちょっと事務所長的に、それはそれで別に正当性があれば、全然それは緩くても、皆さんが生き生き活動するためにうちは緩いんじゃないかなというふうに言えばいいので、別に緩くとか、そういうふうの実務的にしていただくのは悪いことだとは全く思いませんけど、そこはちょっと何となく。 ・今年、河川整備計画のフォローアップの委員会で、少しレンジャー制度の話も場合によってはちょっと議論になるような話も去年の淀川水系の河川整備計画の委員会でありましたので、そこのところはチェックをしていただければなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。今日の話のところをまとめると、レンジャーさんは、今後6・7・8・9・10までのスタイルを考えて、今日の話を受けてのそういう報告書の一つ出してもらおうということ。 ・それをもって、次の機会という、11月になっちゃうので、そやからその報告どうのこうのというよりは、そっちのほうにも時間を取って、見させてもらって議論しましょうかということですね。 ・あと、そういう中で、レンジャーさんのほうも一つは年間活動計画、あるいは今も話があったように、月ごとの濃淡は当然出てくるでしょうけれども、年間活動計画のここを目標にやっていますよという最後のところについては、目標に成果が到達できるようにということを意識しておいていただければ。 ・今日の話はほかの委員の皆さんを含めて、濃淡があってもいいし、報告のスタイルについては、みんなが分かりやすい、こういう目的でやりましたというのが分かりやすいスタイルにしてもらえば、箇条書きでもいいし、自分の思いを当然入れてもらわんならん部分はあるやろうし、そういう感じにまとめてもらえばいいのかなということ。 ・この夏、11月に目がけては、そういう方向で、試行という格好になるんですかね。けど、今やってもらっているのと、そんなとっ外れたことにはなっていないやろうと思うんですけど。 ・というようなところで、レンジャーさん、いかがでしょうか、そういう感じで。
R水上	・私はそれで。
中谷	・よろしいですか。はい。
平山	・試しにというところで、それでいいと思うんですけども、お一人お一人もいろんな書き方を試してもらってもいいんじゃないかなと思ひまして。例えば、「誰と会いました。と写真」みたいなのもあってもいいですし、「今日はこういうのを開催して、こういう声をいっぱいいただきました。終わり」みたいなのもいいですし、何か議論するときに、これはちょっと、これはもちろん大丈夫です、の様ないろんな材料があったほうが議論しやすいと思います。以上です。
R水上	・ちょっとその点。先ほど、平山委員がいろんなものを書かれたと言われて、試行という形でやるとなったときに、検証できるから。従来のやつも我々は書かいかんのですか。
中谷	・いいですよ。
R水上	・もう切り替えていいんですか。
中谷	・ダブルはまずい。そういうふうにしフトする。というふうにまとめてみましたが、先ほど言いましたが、ちょっとそういう方向でやるということ、事務局のほうも押さえていただいて、次のこういう機会について

		は、もうそれについては、また議論しつつ、さらにいい方向が見つかればそれでいいしという、そういう感じでたちまちは説明させてもらいましょうか。
	△中西	・よろしいでしょうか。ありがとうございます。また、ヒアリングして、これでスタートしますというのもお伝えしながら、情報提供しながら、また進めて、皆様に情報提供しながら進めていくということで。
	中谷	・また、6月、7月、8月出してもらったものを見させてもらうので。ということ。
	北井	・ちょっとだけつけ加えてもいいですか。
	中谷	・はい。
	北井	<p>・月間の報告を本当に丁寧ににつくっていらっしゃるのを分かった上でですけれども、私も何か、こういうコーディネーターという職種なので、自分で思うこととして共有しおくと、議事録としてしっかり取っておいたり、記録が残っていることって、自分の身を守ることもつながると思っています。トラブルが起きるとか、言った言わないになるとか、いろんなことが、調整をいろいろされていたらあると思うんですね。なので、すごい詳細な記録をとというわけじゃないんですけども、誰がどう言って、何が集まったとか、こういうことを伝えたみたいな、そういう一個一個の議事をまとめるような、議事というか要点をまとめるようなつもりで取ってもらったものを報告にされるとかでもいいのかなという気がします。</p> <p>・そういう意味で、こっちへの報告への負担ということじゃなくて、自身の活動の振り返りだとか、そういうちょっと自分としての防衛じゃないですけど、最終的にはそういうときに多分役立ってくる部分もあるのかなと思うので、ちょっと視点を変えていただきたいと思います。</p>
	中谷	・ありがとうございました。では、議事のほうはそこで。
	△中西	・ありがとうございました。貴重なアドバイスをいただいておりますので、それらも含めて様式のほうに反映したいと思います。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
5. その他 (2) 傍聴者からのご意見	△中西	・今日は傍聴されている方がお一人いらっしゃいますので。
	中谷	・ご発言の希望がありましたら。すいませんが、5分程度でお願いできるとありがたいです。
	傍聴者	・意見というか、お願いなんですけど、野洲川にもリバプレ隊みたいなのでつくりたいので、コーディネーターをお願いしたいんですけども。今、河口付近を清掃しているんですけども。
	若公	・河川愛護モニターとしてご活動いただいている。ありがとうございます。

		いつも。
	R根木山	・リバプレ隊みたいなのというのは、どういうイメージですか。
	傍聴者	・月一で清掃活動を。水辺ステーションの左岸側にあるJLCという、堤防が一般道路で通行可なので、堤防下と管理道路の間の草地は、去年、幼木を切り倒して、かなりごみがあるようになったので、それを拾ったんですけど、月一で草刈りして拾っていけば、そんなになくなるのかなと。
	若公	・自己紹介を。ぜひお名前を含めて自己紹介を。
	傍聴者	・去年7月から河川愛護モニターです。
	若公	・物すごくいい報告を。それは毎月もらっている報告を拝見しているんですけど、いつもありがとうございます。本当に。
	R根木山	・ぜひお手伝いします。後で名刺交換させてください。
	中谷	・後で、リバプレ隊の理事長から苦労話を。 ・では、役割をここまでとさせていただきます。ありがとうございます。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
6. 閉会	△ 長谷川	・そうしましたら、今日はお忙しい中、長時間にわたる議論、ありがとうございました。そうしましたら、第72回河川レンジャー制度運営委員会を閉会いたします。ありがとうございました。